

【梗概「貉（ムジナ）」】木島二平は、築六十年ほどの古い実家で一人暮らしをしていた。定年まで残り数年となった勤め先では、年下の上司に責められ、部下になめられ、肩身の狭い日々を送っていた。そんなある日の早朝、突然、床下から茶褐色のずんぐりとした体の貉（ムジナ）が飛び出して来る。家で用無しになっていた家財道具をかき集めて、出入りしていた穴の前にバリケードを築くが、次々に突破され、何度も床下で騒がれ、木島は徐々に疲弊していく。

そしてプロの害獣相談員、四元に頼ることになるのだが、どういうわけか施工の日程は延び延びになり、ようやく四元が塞いだ穴も突破され、そのくせ料金はつり上げられていく。四元へ不信感を募らせる木島だったが、ほかに頼れる業者もない。貉の存在感は、日に日に増すばかりで、眠れぬ夜を過ごす木島は、精神的に追い詰められ、狂気を帯びていく。